

平成 28 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272300864		
法人名	社会福祉法人千栄会		
事業所名	グループホームさんふじ		
所在地	〒038-3837 青森県南津軽郡藤崎町柏木堰字亀田67番地1		
自己評価作成日	平成28年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成28年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人内の事業所を毎日自由に行き来しながら、近所や顔なじみの方との関わりが常に持つ事が出来、解放的となっている。また毎朝特養ホールで行うラジオ体操に集団で参加し、長い距離を歩いたり体力づくりに繋がっている。集落からは離れているが、地域と密着した関わりを持つ様にし、地域行事の参加や、役場にキャップを消毒し定期的に届けている。また毎年保育園や交通安全母の会にマスコットの作品を贈り続けたり、町の文化祭には利用者の作品の展示をしている。毎月各ユニット毎に、一人ひとり最善のケアが出来る様に話し合う機会を持ちサービスに繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

山が眺められる環境にあり、特別養護老人ホームが併設されている事で、看護師の訪問が毎日2回あり、職員も利用者も安心している。利用者は玄関から外に出て外気浴されており、笑顔がとても印象的である。又、職員の働き甲斐は、利用者を笑顔にするという言葉通り、利用者の笑顔で迎えられ心地よい印象である。書類やマニュアルも整備されており、職員教育は年間計画で職員に選んでもらい、外部研修も年間12回と、職員は自分の時間に合わせて勉強できている。研修部会が計画立案し、各ユニットの管理者が管理している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を特養ホームやグループホーム入口に大きく掲示している。以前朝礼で週に一度復唱する機会があったが、周知されてきた為現在終了している。現在は各部門内会議時に理念や基本目標を定期的に確認する様にしている。	理念と年度の目標は、法人全体で立てているが、更にグループホームの目標を掲げ、職員が共有し、その実現に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域密着型サービスに位置づけられる意味を考え、地域との関わりを密に図るよう心掛けている。町の行事にできるだけ参加し普段でも希望にできるだけ合わせて地域に外出する機会を作っている。また定期的にボランティアの受入れによる読み聞かせ、裁縫、三味線の演奏会等を行なってもらっている。	町内会の行事に参加している。婦人部が中心にボランティアを受け入れており、地域とのつながりを続けている。また、地域の一員として交流を続けられるように、外出の機会を多くして支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防事業の委託を受け、月に二回介護予防教室(げんき教室)を開催し職員を派遣している。当施設では3名の認知症サポーター研修終了者がおり、地域から要請があれば出向く等キャラバンメイト育成の取り組みをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当事業者からの近況報告や、家族や地域、行政からの意見交換をもとに、サービス向上に役立っている。話し合った事は職員に会議の場で報告したり、いつでも会議録を閲覧できる様にしている。また、メンバーの欠席に関しては会議録を渡し、継続的な関わりが出来るような関係を保つようにしている。今年度は町内事業所の会議見学会を実施している。	利用者家族や地域、町内会長の参加もある。グループホームのサービス状況を報告し、活発な意見交換があり、出された意見は記録し、サービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着型情報交換会に定期的に参加して情報を共有している。町の依頼により傾聴サロンや町内会連合会等の受け入れを実施した。また災害時、福祉避難所として協定を結んでいる。	町内会から傾聴サロンを依頼されたり、連合会の受け入れ状況や、サービスに向けた取り組みをその都度報告し、相談して協力関係を保ちながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当グループホーム全体で医師を含む構成からなる委員会を設けており、身体拘束をしない取組みに努めている。	グループホームの玄関、居室は施錠はしていないが、玄関は死角になっているのでセンサーをとりつけている。研修会等で職員は身体拘束をしないという認識で共有し、やむを得ず身体拘束が必要な場合に備えて同意書を準備し、記録を残す取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会主催により勉強会を過去に実施しており注意を払い発生防止に努めている。苦情処理検討委員会、研修委員会等でも職員のマナーについてはよく話し合い、役席からの指導がよくある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見による勉強会を外部講師を招き開催した。またこの度包括で主催した研修会に職員を派遣し、学ぶ機会も得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者よりご家族に対して十分説明をし要望があれば自宅に出向きゆっくり話をする時間を持っている。また見学をしながら実際生活場面と重ね合わせた説明を加え、安心できるように案内をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱を設置している。また、面会時に家族から意見や要望を聞き入れ運営やケアプランに反映している。運営推進会議にご家族参加を呼びかけ意見交換する機会を持っている。家族との話し合いは十分心掛けている。	玄関に意見箱をおいている。重要事項説明書や契約書に苦情に関する説明があり、家族から意見が出された時には速やかに対応し、運営に反映させる仕組みをとっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催のユニット会議や、部門内会議、普段の業務の中からも職員の意見を聞き、施設運営に反映している。	毎月一回のユニット会議や、部門会議等で意見を出しやすい雰囲気をつくり、普段の勤務の中から物品購入や介護についての意見が出された時は、一緒に検討し、グループホームの運営に反映させる仕組みを整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、自己申告書を施設長宛てに提出し自分の思いを自由に記載している。また定期的に人事考課を評価しており職員の意識と質の向上に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画において、内外の研修に参加できる体制があり、研修委員会が実施の推進や状況を把握している。施設内では各部門のみならず、部会、委員会主催で研修会を開催している。開催後は各課へ報告書を回覧したり報告会を開催し周知する機会を持ち、知識と技術の向上に繋げている。外部講師を招いた研修会も開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	藤崎町内で定期的に同業者による交流会があり今年で8年目を迎える。各グループホームの検討課題を持ち寄り、事業所の見学会を行ってきた。今年度は運営推進会議の見学会を2カ月に一度開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や居宅介護支援事業所担当ケアマネから情報を集め、入所前の生活習慣等を把握し、又不安や悩みを聞き入れケアプランの作成を行なっている。入所後の事については詳しく説明を行ない、理解と関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や居宅介護支援事業所担当ケアマネから情報を集め、入所前の生活習慣等を把握し、不安や悩みを聞き入れケアプランの作成を行なっている。入所後の事については詳しく説明を行ない、理解と関係作りに努めている。入所後も面会時には話し合う時間を作り要望がないか意見をもらう様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式のアセスメントを使い、本人にとって必要とされるサービスを検討し支援している。また、本人と話をする機会を設けて信頼関係を築き、希望や意向の把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に家事仕事や軽作業を行ない本人の残存機能を活かせるような関わりを持っている。また、他入居者との交流する機会を持ち支え合う関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、地域、社会の繋がりを大切に、重点目標にも掲げている。一部の家族には受診の対応を行なってもらっている。また行事にも家族参加を呼びかけ、一緒に過ごす時間を作っている。定期的にお手紙や写真を発送し生活ぶりをお知らせもしている。遠方の方には電話や手紙の支援もしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に通っていた理・美容院や商店を希望に合わせ利用している。またかかりつけ医の継続により主治医と断ち切れない関係を保っている。併設のデイサービスやショートステイ利用者の行き来もあり、関係づくりに配慮している。	入居前からの生活を把握し、利用者、家族の希望時は理容室、美容室を利用できるよう継続しており、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	2つのユニットや併設する特養を自由行き来し、気の合う仲間と過ごし時間を作る事ができる。またショートステイやデイサービス利用者の方と自由に行き来できる環境となっている。相互に自由に行事や余暇活動に参加出来、利用者同士の関係作りに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホーム退所者の多くの利用者は、併設の特別養護老人ホームへの入所をされる為、継続した関わりが保たれている。また、特別養護老人ホーム退所利用者ご家族による読み聞かせのボランティアの定期訪問もある。昨年退所された家族が収穫した果物を持参されて立ち寄ることもあった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の暮らしぶりを考慮し、職員間で日頃から希望の把握に努めている。また利用者や職員の話し合う懇談会の場を毎月設け、それぞれの要望や意見を聞き、出来る限り実施できるようにしている。	日々のサービス提供場面で、利用者の観察から一人ひとりの思いを汲み取るよう努めているが、毎月一回利用者や職員の懇談会の場でも話し合っている。また、必要に応じて家族、関係者と話し合い、本人本位に検討し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所する段階で家族や本人より生活歴や生活環境など情報を得て実態把握に努め、センター方式によりアセスメントの記載から職員が統一したケアが出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の関わりの中で日常生活の過ごし方や心身の状態変化を観察し業務日報や個人記録に記録した事を職員が現況把握出来るようにしている。毎月処遇会議を開催し今必要なサービス内容を確認し合い、統一したケアが出来る様に努めている。個別対応表を作成し一人ひとりのケアが明確に解る様に表にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット毎に会議を開催し、関係職員でケアカンファレンスを実施している。また本人や家族の意向や関わる職員の意見も参考に反映させている。ケアプランについては家族の面会時に確認し話し合いを持っている。	毎月ユニット会議で、ケアプランカンファレンスを行い現状に合った目標を設定し、家族、関係者と話し合い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランサービス内容の実施記録を毎日チェックし、3ヶ月毎にモニタリングを実施している。また業務日報や個人記録簿にも記載し、職員が最近の情報を共有出来る様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設するデイサービスや特養・ショートステイ棟へ自由に行き来し、希望に合わせ合同企画や余暇活動を提供している。また、デイサービスやショートステイ利用からグループホーム、特養入所とニーズに合わせて、前段階で馴染んでもらえる様に取組みをしている。予定以外にも本人の意向や家族の希望に合わせ柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望者は町の行事に参加し地域交流を深めている。役場で収集されたペットボトルのキャップを当グループホームで洗浄し定期的に届けている。徘徊等の問題が生じた場合、他機関への協力体制を得られる様になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に継続して受診ができるよう支援している。また、内科・歯科医の往診を利用されている方もいる。	入居前の医療機関を受診できるようにしている。また、希望により内科や歯科の往診ができる体制をつくり、支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設特養ホーム看護師に毎日来てもらい必要に応じて処置対応をもらっている。また状態報告によるアドバイスを随時受けている。体調不良者がいる場合は日中夜時間を問わず迅速に連携を取り対応を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを作成し医療機関との連携を図っている。入院中には訪問を行い状態を把握したり、連携室相談員と関わりを持ちながら経過と共に情報をいただく様になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態に合わせてながら、家族と重度化や終末期の話し合いをしている。この度癌末期の利用者の方の退所時、事前に本人と家族、病院スタッフ、施設管理者とで一緒に病院の見学を行った。	重度化や終末期については家族と話し合い、他病院への移転については、家族と一緒に入院先の病院を見学し、安心して移転できるよう、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には併設するホーム、看護職員との協力体制がある。いつでも対応できるようにマニュアルを職員室に閲覧できるようにしている。また、定期的に医務や事故防止委員会で緊急時に備えた勉強会を実施し知識と技術の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会を主体とし避難訓練を2ヶ月に一度、昼夜を想定し煙を使用した訓練を実施している。地域住民や消防団参加の訓練や町の防災訓練への積極的な参加も行なっている。	2か月に一回昼夜を想定した訓練を実施している。地域の消防団の参加や地域住民の参加もあり、災害時の避難所としての役割を持ち、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	以前外部講師を招いてマナーに関する研修会を開催した。研修委員会や認知症部会が中心となり接遇や言葉遣いに置いて勉強会や指導を行なっている。個人のプライバシーについても保護に努め細かい配慮に注意を払っている。	外部より講師を招いてマナーに関する研修会を開催し、研修委員や認知症部会が中心となり、プライバシーの確保、人格を尊重する言葉遣い等、勉強会で共有し、マナーのマニュアルを作り、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で話を傾聴し、電話や外出希望、物品の購入、環境整備等話があがっている。また月初めに利用者と職員が一緒になって話し合う機会があり希望等を聞き入れ予定の中に組み入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や食事内容、余暇活動等、生活パターンを決めず、その日その日で意向を確認しながら柔軟に対応し希望に合わせてすすめるようにしている。併設する特養では出来ないグループホームならではの特色を活かすようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自室に鏡台を置き、自分専用の化粧セットで身だしなみを整えている方もいる。行事に合わせてスカートを着用する等個性を大切に、その人らしい姿で過ごしてもらっている。希望に合わせてなじみの美容院に通い支援している方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が食事の準備や片付けと一緒に会話をしながら進め支援している。献立表以外でも希望を取り入れ食事の提供をしている。最近より月2回朝食をパンにし好評を得ている。	利用者と職員は、一緒に準備や後片付けをしながら行っており、それぞれが自分の役割として活動している。決まった献立以外にも、利用者の好みによって一品加えたり、和やかな雰囲気づくりをしながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の栄養士が献立を作成し栄養バランスの管理を行なっている。3か月に一度、栄養調理部会により栄養管理表に基づき項目をチェックし栄養士が指導を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し残存機能を活かせる範囲内で歯磨きやうがいをお勧めしている。ポリドントによる消毒で、清潔・感染予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや排泄リズムを把握し、時間帯によりパットの種類を使い分け、気持ち良い排泄ができるように努めている。最近入所された方以外全員はおムツ使用ゼロである。	一人ひとりの排泄記録があり、排泄パターンを理解し、オムツを使用しない介護の取り組みを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認は毎日行い、チェックしている。毎日牛乳や希望者には乳製品を準備したり、運動する機会を多くし便秘予防に努めている。最近一部利用者に乳化オリゴワンを提供し排便経過を観察中である。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日を特定せず希望者があれば可能な限り個々に応じた支援をしている。入浴後のアルコールも一部利用者の楽しみとなり提供している。併設する特養の大浴場で定期的に入浴し好評を得てきている。	入浴日は設定せずに、利用者の要望に合わせた支援をしている。受診の前はそれとなく促し、入浴、シャワーを使用する支援をしている。併設する特別養護老人ホームの大浴場は、定期的にご利用し、個々に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを理解し自由な休息を支援している。職員全員が眠剤使用者を把握している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情報を保管しており、職員がいつでも確認できる。服薬の変更時は申し送りしている。薬のセット間違いがない様に現在は職員二人で薬のセットをしている。		
48		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮し、個々に合わせて手芸、農作業、調理、洗濯たみ、その他を行う事により、役割を果たし、達成感や楽しみのある生活を支援している。ただ作業をしてもらうだけでなく感謝の言葉を伝えて作業してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行かないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に遠足やねぶた見学を実施し、季節に合わせて外出行事を実施している。毎月の入居者懇談会や日頃の関わりの中での要望や希望に合わせてなるべく実施する様にしている。	家族と一緒に遠足やねぶた見学を実施しており、季節の行事に合わせた外出を実施している。また、外出時は利用者に合わせた歩行用具を準備して支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は、家族の同意を得て、少額の小遣いを管理している。買い物や散髪の際に可能な方には支払を自分で行ってもらっている。ホームにあるジュースやアイスの販売を利用している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば支援し家族との関わりを持っている。職員からの家族宛の手紙を約三ヶ月毎に発送し、可能な方は一筆や作品、また生活風景の写真等を同封している。年賀状なども家族に発送する援助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内は毎日掃除する機会があり、清潔に保たれている。その時に合わせゆったりとした音楽や有線を流している。また所々に季節を感じられる作品を展示し居心地の良い飾りつけを心がけている。	グループホーム内は、温度湿度が管理され、特に清掃に留意しており、季節感のある飾り等、環境に配慮して心地よく過ごせる居場所を作り工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	併設する特養や二つのユニットを自由に行き来し自由に寛げる様にしている。居室に利用者を招きお茶やおしゃべりをして利用者同士わきあいあいとつづげる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には入所時、使い慣れたものを持ってきてもらう様にお願いしており、仏壇や茶箆等を持参している方もおり、なるべく生活習慣に合わせた居室で生活してもらっている。また家族写真をなるべく飾るようにし、安心できる様にしている。	居室への持ち込みは家族と話し、使い慣れた物を持ってきてもらうようにしており、仏壇や箆等を持ってきて、今までの生活習慣の継続になるよう支援している。家族写真等も利用者と一緒に飾り、安心して過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は移動の際、車椅子や歩行の妨げにならないように整理整頓を心掛けている。中庭も開放し外の空気を自由に吸ったりプランターの野菜を観察し手にできる様になっている。		